

## こぼれ話 24

「嫁に行くなら日野に行け」

皆さまは、この言葉をどこ存じですか？現在の立川市など多摩川北岸の人々が、南岸を指して言った言葉だそうです。その理由は、日野市の地理にみえます。

河川の位置を見ると、日野市を挟むように北側に多摩川、南側に多摩川の支流である浅川が流れ、市域で両河川が合流します。

また、多摩川沿いの地域は川の流れによって土砂が積み重なった沖積地であり、肥沃な土地が広がっています。日野台地の崖からも水が湧き出るなど、水の得やすい恵まれた環境でした。沖積地は洪水の危険を伴いますが、同時に水田開発に適した土地だったのです。

日野地域の先人たちは、川から水を引き入れ、用水を網の目状に巡らせました。これが、日野の原風景ともいえる「見渡す限りの一面の田んぼ」を創り出したのです。

かつての日野は、「多摩の穀倉」と呼ばれるほど、多摩地域でも有数の米処として栄えていました。「日野は米がよくとれる。だから食うには困らない。安心して娘を出せる。」というわけですよ。



東光寺の田んぼ